
序文



現代のリハビリテーション医療において、チーム医療の重要性がますます高まっています。リハビリテーションに携わるすべてのスタッフが疾患やその病態、治療方針をより深く理解し、的確な介入を行うことは、患者の早期回復や再発予防に大きく寄与します。近年、画像検査の果たす役割の範囲が拡大しており、“画像を見る力・使う力”についても、今後ますます求められるようになっていくと思われま

しかし、実際には、画像検査はリハビリテーションスタッフが苦手意識を持ちやすい分野でもあります。そこで本書『リハスタッフのための運動器画像の読み方』は、そうした現場の声に答えるために企画されました。リハビリテーションの現場で遭遇する、あるいは知っておくべき代表的な運動器疾患(約40疾患)を厳選し、その画像のポイントについて放射線科医がわかりやすく解説しています。さらに、各領域において整形外科医がリハビリテーションの視点から、病態を踏まえた介入のポイント、医師や他職種への報告・連携の要点などを整理し、臨床の現場につながるように簡潔に解説しています。

本書は、リハビリテーションに携わるすべてのスタッフを対象としており、とくに若手スタッフにとっては、疾患を理解したうえでの画像の見方・使い方、介入の考え方を学ぶ第一歩となるはずで

また、経験豊富なスタッフにとっても、病態把握の質を高め、日常の診療やチーム医療の中の役割、連携を高めるための一助となると思います。

本書が、運動器リハビリテーションにおける画像理解のガイドとして、日々の診療での一助となり、より良い患者ケアと円滑なチーム医療の実現につながることを、心より願っております。

2025年7月

中川晃一

東邦大学医療センター佐倉病院整形外科

稲岡 努

東邦大学医療センター佐倉病院放射線科